

状況 及び 対応

ソーシャルディスタンスをとっての集団レクはどうしていますか？という投稿がありました。スペース的な事、レクの内容、どこも悩むところではないでしょうか…

A事業所では…

最初は言葉遊びなど接触の少ないものをやるが徐々に体を動かしたいのでゲームをやるようになった。すごろくのサイコロ、お手玉など使う道具はその都度使用後に消毒、マレットのスティックは同じものを使用などの配慮で行う。すごろくで「隣の人と肩たたき」とあり密になってしまうので両手を挙げて背筋伸ばしに変えるなど工夫。

B事業所では…

利用者さん職員共にマスク着用、テーブルの中央に高さ40センチのアクリル板の衝立使用でレクは今まで通り…小規模事業所なので密な現状です…

C事業所では…

同じ方向を向く、少しづつずらして座る、換気、体操などのリーダーは飛沫防止シートの向こう側に立ちマイク使用。工作系は手作業なので対面も可。ソーシャルディスタンスと言っても利用者同士話したければ自然に移動しているのが現状。

D事業所では…

ソーシャルディスタンスとなると一日の利用者数を減らさないと保てないのが現状。(通所)

E事業所では…

食席数を減らして座る、透明なビニールシートを邪魔にならない程度に所々に設置する

F事業所では…

入居とショート棟をわけてレクも棟ごとに行う。

課題

デイ利用中の利用者のマスク使用を緩和(熱中症予防等もあり併設特養の主治医と相談)した。座席も個々が以前より離れているがどこまで感染症に気を付けるのか、お互いバイキン扱いない言葉かけ、体を使ったレク(体力維持のため)、スキンシップ…新たなデイの活動、生活様式など人間関係希薄にならないよう模索中。

提案

今回、ソーシャルディスタンスと集団レクとの投稿から様々な現状との狭間で課題を抱えながら日々のレクを含めたケアを継続している様子がみえてきます。そんな中で利用者にとって何のためのレクなのかを改めて振り返り再構築していく事が大切なのではないのでしょうか？

機能維持が目的であればいつもなら隣の方とすぐ手を繋げるのがソーシャルディスタンスの間隔があるともっと手を挙げて伸ばす訓練になります。繋がる事が目的であれば例えば新聞紙で作った棒をおいておけばそれを使って隣の方と繋がれます。広さが無ければグループに分けて何回か行うなど…。できないからやらないをどうしたらできるかを考えて提案していきましょう。

同時に規制が緩和されてきている今だからこそクラスターにならないよう感染予防に努めていきましょう。